

耳の弥勒堂とみみろくさん

(耳)

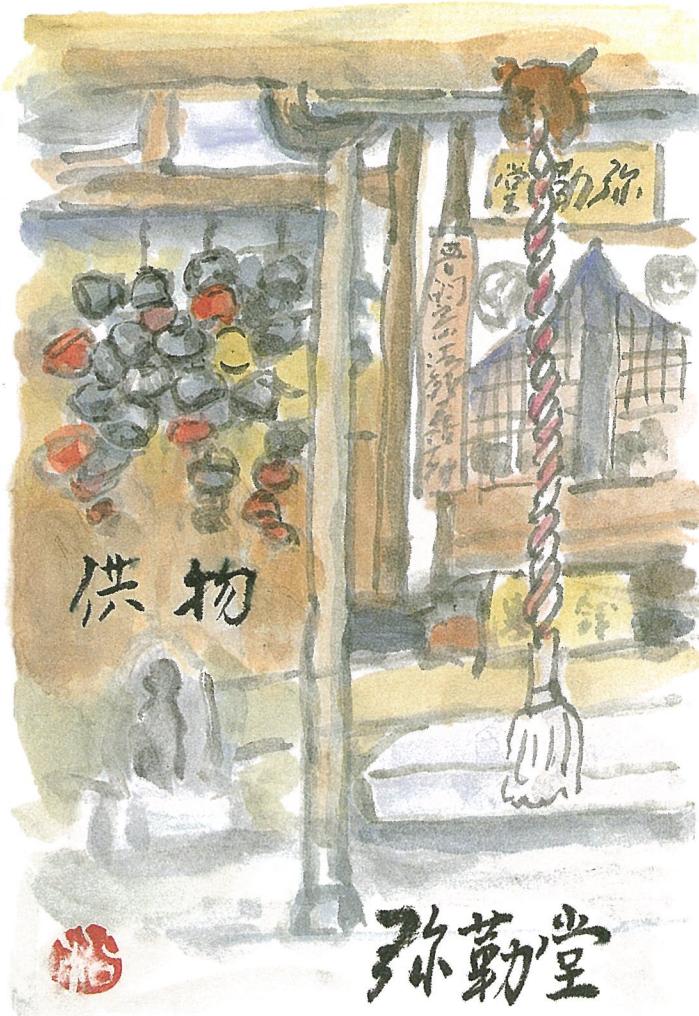
耳集落の山麓の一番高いところに弥勒菩薩を安置する弥勒堂がある。

現在のお堂は、昭和63年(1988)に全面改築されたものである。

当堂は、関金の曹洞宗法願寺の説教所になっている。

本尊の弥勒菩薩木像は、棟札によつて、理由は不明であるが、文久3年(1863)法願寺住職九世得量の時代に造像されたものであることがわかった。弥勒菩薩の「みろく」の音読から古くから「みみろくさん」と親しまれている。その関係からか耳の疾病に利益があると伝えられている。本来の弥勒利益との関連は不明である。

このお堂には珍しい風習が今でも残っている。供物として、木椀、貝殻、平たく丸い石などに願主などを書き、中央に穴をあけて、針金や紐を通してかける。耳がよく聞こえるように祈願するためという。



(注)

棟札：棟上げや再建・修理の工事の由緒、建築の年月、建築者または工匠の名などを記入して棟木に打ち付ける札。同様の物の総称。

願主：神仏に願いを立てる人